

保安レベルの維持向上への取組み (優良販売業者編)



富士瓦斯株式会社 代表取締役社長

津田 維一

1 会社沿革

- 1954年5月24日 東京都世田谷区で創業
- 1956年7月 祖師谷充填工場新設開業
- 2014年2月 経済産業省より災害時対応型
石油ガス中核充填所の指定を
受ける
- 2014年3月 ISO22301：2012の認証取得

2 表彰履歴

- 1976年 東京都知事 優良製造所受賞
- 1994年 関東高圧ガス保安団体連合会
優良事業所受賞
- 2016年 東京都知事 LPガス優良事業所受
賞
- 2018年 高圧ガス保安協会会長 優良販売
業者受賞

3 保安に対する考え方

富士瓦斯(株)(以下、「当社」)の経営理念は「顧客の信頼こそ事業繁栄の根本である。事業の公共的使命を自覚し、信頼の確立に最大の努力を注ぐ」となっており、基本方針の中でも「1. LPガスの安定供給を通じて社会に奉仕し、豊かな生活づくりに貢献する」「2. LP

ガスの信頼性をより高めるため、保安の確保を最優先させる」として、保安最優先の姿勢を常日頃より強調してきた。

当社の本社・充填所は東京世田谷の住宅街にあり、この地で事業を継続していくためには、全従業員が経営理念と基本方針を念頭に置き日々「保安最優先」の意識を持ち続けることが必要不可欠であると考えている。

4 保安活動

当社は、中核充填所の指定を受けており、大規模災害発生時においては、東京23区内に位置する数少ない事業者として、行政および同業他社と連携し、都心におけるLPガスの供給を担う大きな責任を有している。

施設面ではLPガス屋外用発電機2基を設置し、災害時の停電の状況下でも平時と同様に設備の保守管理、充填作業が行えるよう災害対応力を強化した。また、事業活動の中断が懸念される事態となった際には、Business Continuity Plan (BCP：事業継続計画)を発動して事業活動の早期回復にあたることになっている。さらに定期的な製造保安教育での保安意識の啓蒙はもちろんのこと、単にマニュアルとならないよう、Business Continuity Management Systems (BCMS：事業継続シ

ステム)の国際規格であるISO22301の認証をいち早く取得し、大規模災害発生時には災害対応力が有効に機能するよう図っている。

また、東北の震災での反省から、LPガス事業者同士の災害時の広域連携とBCMSの普及を目的とする「NPO法人LPG災害対応コンソーシアム」の設立に参加し、各社持ち回り制での合同演習も年1回行っている。この演習では、災害発生時においては、1週間をめどに「事業活動の早期回復」「公共施設等へのガスや設備の提供要請に応える」といった課題を立て、参加各社の連携によって課題の解決を図る。毎年異なる社員を参加させ震災を想定した状況下で臨場感ある演習を体験させている。なお、2018年西日本豪雨の際には現地からの支援要請に応え、LPG災害対応コンソーシアムを通じて人員を派遣し微力ながら災害支援を行った。

社内保安教育については、「製造保安教育」「販売事業保安教育」以外にも配送員向けの「配送保安教育」、ガス機器設置に関する「施工保安教育」、直売部署向けの「直売部署内保安教育」を年間計画書に沿って実施している。また、本社・充填所において、所轄消防署立会いで「防災訓練」を従業員一人ひとりの役割を決め、毎年行っている。また、社外

の保安講習会等にも積極的に参加して、保安行政および業界動向について情報収集し、社内で共有・周知を行っている。

5 今後の抱負

2011年3月の東日本大震災を経験し、改めて「事業の公共的使命を自覚」した。都心に拠点を置く当社は、今後起こり得るであろう災害に対して迅速に対応できるように入念に準備しておかなければならない。都心における公的施設等の非常用LPガス発電機の設置、都市ガスエリアでの仮設住宅や炊き出し用のLPガスの供給は当社が使命感を持って行っていかなければならないであろう。同業他社との協業や連携を強化することで実効性を高めていきたい。

消費者保安についてもLPガスの事故は必ず起こるという意識、どうなると事故に繋がってしまうのかという想像力を持ってお客様に対応していかなければならない。当社が行う保安業務の重要性を繰り返しお客様へ説明することで、お客様に安全であることを認識してもらい、安心してLPガスを使用していただけるよう日々努力しているところである。

津田維一（つだ これかず）